



産婦人科 専門研修プログラム

産婦人科医師としてのキャリアの一步を、わたしたちと一緒に踏み出そう

信州大学医学部産科婦人科学教室

産婦人科専門研修プログラム

「生命の誕生から、その人らしい最期まで。」 —女性の生涯に寄り添う医療、産婦人科—

産婦人科は生殖・内分泌、周産期、婦人科腫瘍といった3大専門分野をもち、さらに女性のヘルスケアを加えた幅広い学問分野を有します。信州大学医学部附属病院(以下: 信州大学)および連携施設では、各分野のエキスパートによる指導の元での研修が可能です。



生殖・内分泌 – 生命のはじまりに寄り添う –

現時点または将来的に挙児を希望する方々を支える医療です。不妊治療や不育症治療に加え、がん治療などに伴う妊孕性低下に対して、卵子・精子・受精胚の凍結保存などの妊孕性温存療法を行います。夫婦それぞれの価値観や社会的背景を尊重し、医療者と患者が対話を重ねながら、一人ひとりに最適な治療方針をともに考えていきます。



周産期医学 – 母体と胎児を守る –

妊娠・分娩・産褥期における母体と胎児・新生児の安全を支える医療です。正常妊娠の管理に加え、合併症妊娠やハイリスク妊娠に対して、母体と胎児の状態を総合的に評価しながら、適切な周産期管理を行います。急変時には迅速な判断と対応が求められる場面も多く、多職種と連携しながら、母子双方にとって最良の転帰を目指します。



婦人科腫瘍 – 女性の命と未来を守る –

子宮頸がん・子宮体がん・卵巣がんなどの婦人科悪性腫瘍、QOLを低下させる良性腫瘍などに対する診断と治療を担う分野です。手術療法、化学療法、放射線療法、内分泌療法を組み合わせ、患者の病状や背景に応じた最適な集学的治療を行います。治療後の長期フォローや再発予防にも関わりながら、患者一人ひとりの人生に寄り添い、生命と生活の質の両立を目指します。



ヘルスケア – 人生に寄り添い続ける –

思春期から性成熟期、更年期、老年期に至るまで、女性の健康を生涯にわたって支える医療です。月経異常、更年期症状、骨粗鬆症など、ライフステージに応じたさまざまな健康課題に対して、予防・診断・治療を行います。長期的な視点で患者一人ひとりと向き合い、その人らしい生活と健康の維持を支えています。

専門研修の魅力

「豊富な症例数 × 高度医療 × 地域医療」



① 豊富な症例数と多彩な臨床経験

信州大学を基幹施設とし、県内の連携施設との研修体制により、分娩約5000例/年、帝王切開術約1300例/年、婦人科手術約2500例/年（腹腔鏡・ロボット1000例以上/年）、悪性腫瘍1000例以上/年、体外受精約1000例/年と、豊富な症例を経験できます。幅広い領域で、実践的かつバランスの取れた臨床力を身につけることが可能です。

② 高度医療を学べるトップレベルの環境

信州大学には、長野県全域から高度な治療を要する症例が集まります。周産期・婦人科腫瘍領域において、県内随一かつ全国的にも高水準の医療を経験でき、専門性の高い診療能力を養うことができます。



③ 地域医療を支える実践力とやりがい

本プログラムは地域に根差した研修体制を特徴とし、地域医療ならではの産婦人科診療を実践的に学ぶことができます。行政や多職種との連携、妊婦支援、がん患者の緩和ケアや在宅医療などにも関わりながら、地域全体を支える医療を経験できます。自らが長野県の産婦人科医療を担っているという実感とやりがいを得られます。

専門研修開始後、最短4年目に産婦人科専門医へ

- 卒後1-2年（初期研修） 本研修プログラムで研修を行う産婦人科専攻医は、3年間で修了要件を十分満たし、専門医たる技能を修得できると見込まれます。病気や出産・育児、留学などのため3年間で研修修了要件を満たせなかった場合は、1年単位で研修期間を延長します。
- 卒後3-5年（後期研修）
- 産婦人科専門医取得

本プログラムの修了後には、産婦人科専門医認定試験を受験します。

信州大学医学部附属病院と連携施設でのローテーション研修

研修は基幹施設である信州大学ならびに連携施設（図1）で行い、1～2年ごとのローテーションを基本とします。信州大学での研修の長所は、一般病院では経験しにくい疾患を多数経験できること、個々の症例についても、診断・治療や社会的状況について深く考え、調べ、患者さんへの対応にあたることを学べる点です。3年間の研修期間のうち、少なくとも1年間は信州大学で最重症度の患者への最新の標準治療を経験します。

一方、連携施設においては、正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理といった周産期医療や、婦人科腫瘍や不妊症、感染症や月経困難症、更年期症候群といった、より一般的な産婦人科診療を中心に研修をします（表1）。外来診療および入院診療は治療方針の立案、実際の治療から退院まで、指導医の助言を得ながら自ら主体的に行う研修となります。特に長野県立こども病院は全県から症例が集積される施設であり、合併症妊産婦の管理、胎児診断、胎児治療、新生児管理、遺伝カウンセリングなど、周産期分野の高度な研修が可能です。生殖・内分泌医療については、体外受精などの高度な治療は信州大学もしくは南長野医療センター篠ノ井総合病院で研修します。

長野県のほとんどの施設は医師不足地域にあるため地域医療の参画・研修が可能です。

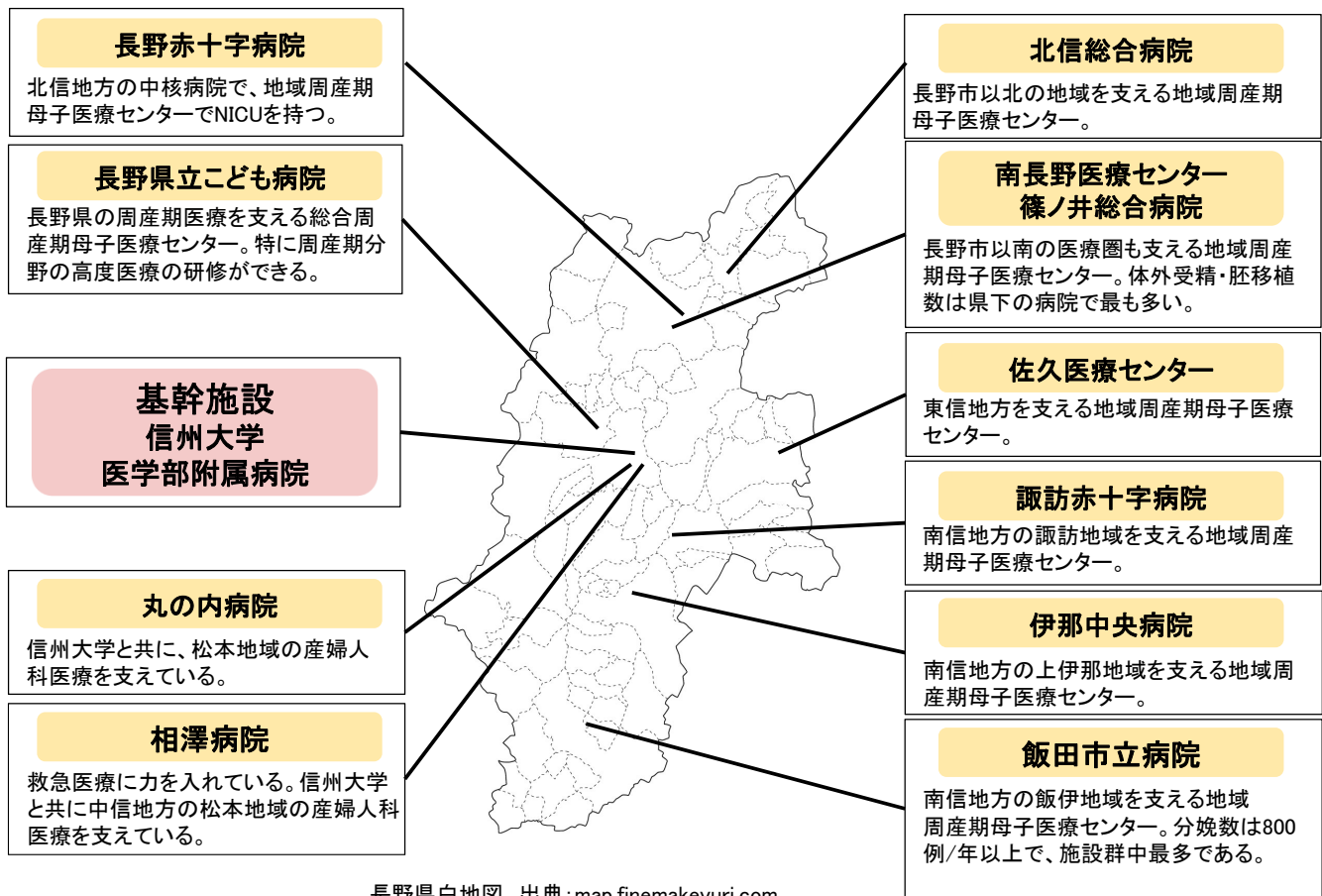


図1: 信州大学産婦人科専門研修プログラム研修施設群

表1: 研修施設群の指導体制(2026年3月)、および実績症例数(2024年)
研修施設の各診療分野での研修体制を○(十分研修できる)、△(研修できるが不十分)、×(研修できない)の3段階で示した。

病院	生殖・内分泌	婦人科腫瘍	周産期	女性のヘルスケア	分娩数(帝王切開)	婦人科手術数	腹腔鏡下手術(良性)	専門指導医数	専門医数
信州大学	○	○	○	○	593 (244)	260	42	10	19
長野県立こども病院	×	×	○	△	250 (98)	0	0	1	5
北信総合病院	△	○	○	○	223 (73)	135	52	2	2
長野赤十字病院	○	○	○	○	393 (136)	305	136	3	5
篠ノ井総合病院	○	○	○	○	522 (155)	533	216	5	6
佐久医療センター	△	○	○	○	508 (159)	264	87	2	7
諏訪赤十字病院	△	○	○	○	410 (89)	373	156	3	3
伊那中央病院	△	○	○	○	442 (119)	250	123	2	4
飯田市立病院	△	○	○	○	821 (103)	223	89	3	5
相澤病院	△	○	○	○	398 (40)	68	0	2	5
丸の内病院	△	○	○	○	437 (79)	197	85	1	6
合計					4997 (1301)	2608	986	34	67

産婦人科専門研修プログラムの具体例 カッコ内の数字は症例数の概算です。

バランスコース(4つの分野を比較的均等に研修)



信州大学

産婦人科基礎
正常およびハイリスク妊娠・分娩(130)

子宮内容除去術(3)
良性腫瘍執刀(20)
悪性腫瘍手術(20)
腹腔鏡手術(15)
生殖医療(5)
女性のヘルスケア(5)

北信総合病院

産婦人科応用1
正常およびハイリスク妊娠・分娩(180)

子宮内容除去術(20)
良性腫瘍執刀(40)
悪性腫瘍手術(5)
腹腔鏡手術(10)
生殖医療(5)
女性のヘルスケア(10)

相澤病院

産婦人科応用2
正常およびハイリスク妊娠・分娩(150)

子宮内容除去術(5)
良性腫瘍執刀(15)
悪性腫瘍手術(3)
腹腔鏡手術(15)
生殖医療(5)
女性のヘルスケア(10)

周産期研修コース



信州大学

産婦人科基礎
正常およびハイリスク妊娠・分娩(130)

子宮内容除去術(3)
良性腫瘍執刀(20)
悪性腫瘍手術(20)
腹腔鏡手術(15)
生殖医療(5)
女性のヘルスケア(5)

伊那中央病院

産婦人科応用1
正常およびハイリスク妊娠・分娩(180)

子宮内容除去術(20)
良性腫瘍執刀(40)
悪性腫瘍手術(5)
腹腔鏡手術(10)
生殖医療(5)
女性のヘルスケア(15)

県立こども病院

産婦人科応用2
正常およびハイリスク妊娠・分娩(100)

腔式手術(3)

社会人大学院(研究)コース



信州大学

産婦人科基礎
正常およびハイリスク妊娠・分娩(130)

子宮内容除去術(3)
良性腫瘍執刀(20)
悪性腫瘍手術(20)
腹腔鏡手術(15)
生殖医療(5)
女性のヘルスケア(5)

諏訪赤十字病院

産婦人科応用1
正常およびハイリスク妊娠・分娩(160)

子宮内容除去術(20)
良性腫瘍執刀(42)
悪性腫瘍手術(6)
腹腔鏡手術(15)
生殖医療(8)
女性のヘルスケア(15)

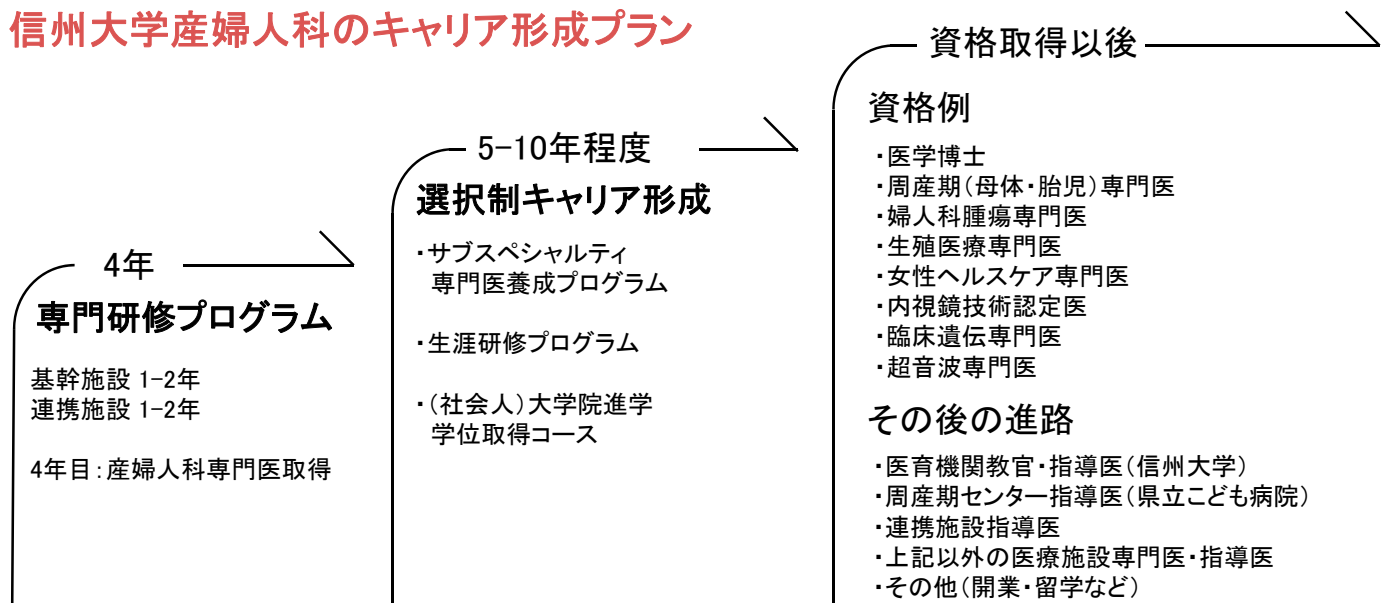
信州大学

社会人大学院
正常およびハイリスク妊娠・分娩(125)

子宮内容除去術(3)
良性腫瘍執刀(13)
悪性腫瘍手術(5)
腹腔鏡手術(5)
生殖医療(10)
女性のヘルスケア(6)

これら以外にも様々な研修施設の組み合わせで、研修コースが組み立てられます。

信州大学産婦人科のキャリア形成プラン

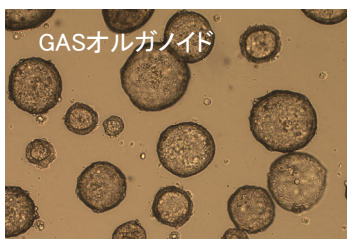


専門医取得後には、「Subspecialty専門医養成プログラム」として、産婦人科4領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動も提示しています。また、専門研修3年目から社会人大学院として信州大学産婦人科の大学院の進学コースを設定します。このコースでは産婦人科専攻医として必要な専門研修を引き続き行うとともに、これとは別に研究日を設定し、専門研修と研究の両立を志すコースです。

大学院での研究、臨床研究

臨床の「課題」を「希望」に変える

日々の診療で感じる「もっと早く見つけられれば」「根本的な治療があれば」という思い。その答えを、私たちは以下の3つの柱で追求しています。



■婦人科腫瘍グループ

- ・GASの早期診断: 予後不良な「子宮頸部胃型腺癌(GAS)」と良性病変の鑑別法を確立し、世界をリードしています。
- ・共同研究: 小児医学教室との婦人科悪性腫瘍に対するCAR-T細胞療法をはじめ、国内外の施設との共同研究に取り組んでいます。
- ・最先端モデル: ジョンスホプキンス大学との共同研究(マウスモデル)や、癌オルガノイドを用いた次世代の個別化治療開発に挑んでいます。

■周産期・胎盤グループ

- ・HDP/FGRの克服: 難治性の妊娠高血圧腎症(HDP)や胎児発育不全(FGR)の鍵を握る「絨毛外トロフォブラスト(EVT)」の浸潤メカニズムを解明しました。
- ・臨床応用への挑戦: 培養細胞から生体モデルでの検証へと進め、現在は対症療法しかないHDPの「根本的治療薬」の創出を目指します。

■生殖医療グループ

通常の生殖補助医療では排卵誘発後に経腔的採卵を行い、成熟卵子を回収します。しかし、卵巣腫瘍を有する症例や、排卵誘発の時間的猶予がない血液疾患患者では従来の採卵が困難となります。当教室では、このような症例に対し、未熟卵子を採取し体外で成熟・受精可能な段階まで培養する技術(体外成熟)の臨床研究を行っています。特に摘出卵巣からの卵子採取において独自の体外培養法を確立し、体外成熟率の向上と生児獲得につなげています。妊孕性温存医療の新たな選択肢として、臨床と基礎の両面から発展を続けています。



国内留学・海外留学

卒後10年目前後に国内外の留学を支援します。

★これまでの留学実績

国内留学

2014-2015年 国立成育医療研究センター 産科

海外留学

2014-2015年 The Johns Hopkins University, Dept. of Pathology

2015-2016年 The Johns Hopkins University, Dept. of Pathology

2017-2019年 The Johns Hopkins University, Dept. of Pathology

2019-2021年 The Johns Hopkins University, Dept. of Pathology

2025年- 現在 Yale School of Medicine, Department of Obstetrics, Gynecology and Reproductive Sciences

学内留学

外科研修など、信州大学内で可能です。



Johns Hopkins大学の
Blalock Buildingにて

将来の就職先

連携施設および連携施設以外の関連病院への就職を随時サポートします。

詳しくは信州大学産婦人科ホームページ参照：<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-sanfu/>

指導医から一言



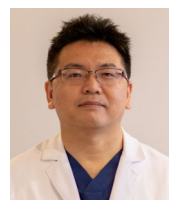
産科病棟医長
田中泰裕

当院では年間約550件の分娩を取り扱っており、ほぼ毎日、生命の誕生の瞬間に立ち会うことができます。正常妊娠のみならず、早産や妊娠高血圧症候群などの産科合併症、内科疾患を合併したハイリスク妊娠、分娩後異常出血による母体搬送など、大学病院ならではの幅広い症例を経験できます。また、上級医の指導のもと、症例検討や議論を重ねながら、早期より胎児エコーや帝王切開術にも携わり、臨床力と手技の双方を着実に身につけることができます。症例をとともに考え、学び、経験しながら、産婦人科医として成長していきましょう！



婦人科病棟医長
安藤大史

婦人科分野では、県内各地から集まる悪性腫瘍症例に加え、異所性妊娠や卵巣腫瘍捻転・破裂といった婦人科救急まで、幅広い疾患を経験できる環境です。実際の診療を通じて診断・治療の知識を体系的に習得しながら、手術では積極的に手を動かすことで確かな手技を着実に身につけることができます。毎週のカンファレンスで放射線科医・病理医とともに画像診断や病理診断を深く学べる点も本科ならではの強みです。学会発表の機会も豊富で、臨床力と研究力を両輪で伸ばしていける土台があります。大学病院だからこそ出会える多彩な症例と、専門家とともに学ぶ深い学びの環境が、産婦人科医としての揺るぎない基礎を築きます。キャリアのはじめの一歩を、ぜひ信州大学で踏み出してください。



生殖医療センター
樋口正太郎

生殖・内分泌分野では現在育児を希望されている不妊・不育症の方、がん治療などにより将来の妊孕性が脅かされている方のサポートをしています。この分野で最も重要なのは「対話」です。エビデンスを一方向的に適用するのではなく、情報を共有しながら患者さん・ご夫婦と向き合い、治療方針をとともに構築していきます。その過程にぜひ参加してください。また、子宮・卵巣の先天的・後天的疾患を有する方も多く、小児からAYA世代、さらには成人期に至るまで、生涯にわたる内分泌・生殖医療を総合的に学べる環境があります。

連絡先

信州大学医学部 産科婦人科学教室 担当者：浅香亮一

■住所：〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 ■電話：0263-37-2719 ■FAX：0263-39-3160

■E-mail：ifujin@shinshu-u.ac.jp

■U R L：<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/chair/i-sanfu/>

■専門研修プログラムの詳細は、信州大学医学部附属病院HP 卒後臨床研修センター → 専門研修 [産科婦人科]

